【授業科目】免疫学 Immunology

担 当 教 員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
星野 真理	1年次 前 期	必 修	1	15	講義	なし	巻末 掲載	可

授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／免疫学では、まず、生体を異物から防御する免疫の仕組みと生体防御について講義を行う。内容としては、自己と非自己を認識して、異物を判断し、各種免疫担当細胞の種類・働き、補体系、自然免疫と獲得免疫など生体防御を開始する詳細なメカニズムなどについて教授する。加えて、アレルギー、腫瘍性疾患、臓器移植における拒絶反応、自己免疫疾患なども免疫と関連している現象であり、免疫と疾患の関わりに関しても講義する。本講義の内容は、免疫検査学・輸血移植検査学への橋渡しをする基本的な内容となる。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／課題に対応する教科書などの内容を説明し、何を習得する必要があるかを提示する。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。
到達目標 (履修者が到達 すべき目標)	① 免疫担当細胞が関与する役割など免疫の仕組みの基本的な理解と生体防御の詳細な機構を理解できる。 ② 習ったことを理解し、説明ができる。
時間外学習に必要 学修内容および 学習上の助言	基礎生物学、生化学、血液学の内容を再度確認して予習しておくこと。 事後は毎回学習したポイントについて、よく復習をすること（1時間程度）。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+ 復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第 1 回 免疫系による生体防御(自然免疫と獲得免疫)、免疫担当器官・組織・細胞 全て 星野 第 2 回 免疫の成立と調節(リンパ球の発生と多様性の獲得機構) 第 3 回 抗原、抗体(免疫グロブリン) 第 4 回 補体 (1) 第 5 回 補体 (2) 第 6 回 各種病原体による感染症 第 7 回 HLA の構造と機能 第 8 回 免疫現象が関わる各種疾患
評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 学期末試験 100% レポート課題や復習小テストを課した場合、その結果も加味する場合がある。
教科書	『最新臨床検査学講座 免疫検査学/輸血・移植検査学』 医歯薬出版株式会社
参考書等	『基礎免疫学 原著第6版』 ELSEVIER
学生への メッセージ	個々の免疫担当細胞の役割とそれらが統合的に働いたときのシステムを理解することが重要です。免疫の全体像が描けるように復習をしてください。